

令和6年度 福島県 英語教育改善プラン

目標

パフォーマンステストによる評価方法の改善を通じた授業改善

- 「CAN-DOリスト」形式の学習目標を設定している学校の割合（R5：88.5%⇒R6：100%）
- 「話すこと」を評価するためのパフォーマンステストを実施している学校の割合（R5：91.5%⇒R6：100%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

令和5年度英語教育実施状況調査の結果より

①「CAN-DOリスト」形式の学習目標を設定している学校の割合が増加した。

(R4:79.6%⇒R5:88.5%)

②授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が増加した。

(R4:87.7%⇒R5:91.0%)

未だ改善が必要な点

①「話すこと」を評価するためのパフォーマンステストを実施した学校の割合が増加はしたが、未だに実施できていない学校がある。

(R4:89.7%⇒R5:91.5%)

2. 要因分析

①小中英語パートナーシップ事業において、研究指定校がCAN-DOリストを活用した授業実践に取り組み、授業公開等で各地域へ実践を周知したことで増加したと考えられる。

②英語担当教員ネクストステージ事業等の研修において、「言語活動を通じた指導」について重点的に取り上げたため、理解と実践が促進されたと考えられる。

①各校においてCAN-DOリスト形式の学習目標の設定が進んだことと、各種研修会等において、言語活動を軸にした単元設計が定着してきたことで、パフォーマンステストを実施した学校の割合が増加した。その一方、未実施である学校については、適切な評価がされているとは言えず、早急な改善が必要である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②英語担当教員エンパワーメント事業

自身の課題を設定し、年間を通じて、主体的・対話的・協働的な研修を実施し、教師の授業力向上を図る。

・授業力向上研修



①②ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業

英語専科配置校及び接続中学校において互見授業等を開催し、小中接続期における学びの過程を意識した授業の充実と小中連携の一層の推進を図る。

成果共有

①パフォーマンス評価を活用した授業実践の推進

・小中高連携推進事業

モデル地区において、パフォーマンステストを中心とした授業改善に取り組む。ワーキンググループを設置し、有識者の指導を仰ぎながらパフォーマンステストの作成や評価、分析についての研修を行う。

教員の指導 方法の変革

- ・パフォーマンステストの設計
- ・有識者による指導助言

児童生徒の 学び方の変革

- ・1人1台端末を活用した言語活動
- ・英語外部試験による成果検証



パフォーマンステスト実践事例集の作成と周知

※ 一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組については、要件を満たす場合は採用試験において、加点措置をし、資格取得者の増加を図っている。

令和6年度 福島県 英語教育改善プラン

目標

パフォーマンステストによる評価方法の改善を通じた授業改善

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 35.8% ⇒ R6 : 45%)
- 「話すこと」「書くこと」両方のパフォーマンステストを実施している学校の割合 (R5 : 79.5% ⇒ R6 : 100%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

令和5年度英語教育実施状況調査の結果より

①「CAN-DOリスト」形式の学習目標を設定している学校の割合が増加した。

(R4:92.4%⇒R5:96.2%)

②教師の英語力が向上した。

(R4:30.6%⇒R5:31.4%)

①授業中に生徒が英語を使う割合が昨年から減少した。

(R4:64.8%⇒R5:60.2%)

② R5全国学力・学習状況調査の生徒質問紙調査の結果から、話す言語活動に関する項目が全国平均を大きく下回っていた。

[やり取り]全国63.8% 県59.6%
[発表] 全国78.7% 県69.5%

2. 要因分析

①小中英語パートナーシップ事業において、研究指定校がCAN-DOリストを活用した授業実践に取り組み、授業公開等で各地域へ実践を周知したことで増加したと考えられる。

②英語担当教員ネクストステージ事業において、教師の英語力向上に関する研修や英語外部試験を実施したことで、向上したと考えられる。

①令和5年度開催の教員研修において、授業における「練習や理解を深める指導」と、「言語活動」との区別を明確にしたことで、言語活動の捉え方が厳密になったことが、減少した要因の一つと考えられる。

②聞く、読む言語活動については全国平均を上回っているため、授業において話す言語活動にあまり時間が割かれていないことが、下回っている要因だと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②英語担当教員エンパワーメント事業

自身の課題を設定し、年間を通じて、主体的・対話的・協働的な研修を実施し、教師の授業力の向上及び英語力向上を図る。

・授業力向上研修



・英語力向上研修

県教育センターと連携し、研修及び英語民間試験受験の機会を提供する。

①ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業

英語専科配置校及び接続中学校において互見授業等を開催し、小中接続期における学びの過程を意識した授業の充実と小中連携の一層の推進を図る。

①②パフォーマンス評価を活用した授業実践の推進 小中高連携推進事業

モデル地区において、パフォーマンステストを中心とした授業改善に取り組む。ワーキンググループを設置し、有識者の指導を仰ぎながらパフォーマンステストの作成や評価、分析についての研修を行う。

教員の指導
方法の変革

- ・パフォーマンステストの設計
- ・有識者による指導助言

児童生徒の
学び方の変革

- ・1人1台端末を活用した言語活動
- ・英語外部試験による成果検証

パフォーマンステスト実践事例集の作成と周知

成果共有

令和6年度 福島県 英語教育改善プラン

言語活動の充実とパフォーマンステストによる評価方法の改善を通じた授業改善

- 目標**
- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5：A2以上 40.6%、B1以上 17.3% ⇒ R6：A2以上 45%、B1以上 22%）
 - 「話すこと」「書くこと」両方のパフォーマンステストを実施している学校の割合（R5：42.9% ⇒ R6：70%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

令和5年度英語教育実施状況調査の結果より

①教師の英語力が向上した。
(R4:55.3%⇒R5:66.6%)

②スピーキングテストとライティングテストの両方を実施している学校の割合が向上した。
(R4:38.1%⇒R5:42.9%)

①生徒の英語力(CEFR A2レベル相当以上)については、引き続き改善の余地がある。
(R4:38.3%⇒R5:40.6%)

②授業中、50%以上の時間言語活動を行っている学校の割合については、引き続き改善の余地がある。
(R4:42.1%⇒R5:43.4%)

2. 要因分析

①英語担当教員ネクストステージ事業(R3～5)において、教師の英語力向上に関する研修や英語外部試験を実施したことで、向上したと考えられる。

②新課程への理解が深まったことに加え、自律的な英語学習者育成プロジェクト事業(R3～5)等における研修や好事例の共有が、パフォーマンステストの実施状況の改善につながったと考えられる。

①生徒の英語力を測る機会のさらなる充実が求められる。英語力を判断する際、CAN-DOリストに基づくパフォーマンス等による見取りが十分に行われていないことも要因だと考えられる。

②特に英語コミュニケーションの授業での言語活動の割合は向上しているが、科目によって実践状況にばらつきがあり、言語活動を通じた指導や統合的な言語活動の実践に課題があることが要因だと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

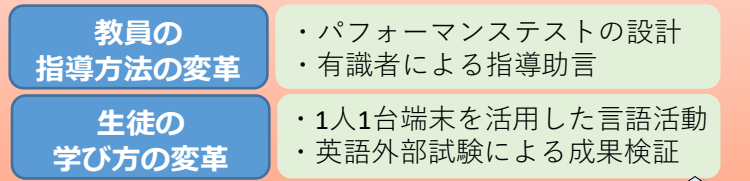
①②英語担当教員エンパワーメント事業
自身の課題を設定し、年間を通じて、主体的・対話的・協働的な研修を実施し、教師の授業力の向上及び英語力向上を図る。



・英語力向上研修
県教育センターとの連携・教員の英語民間試験受験

成果共有

①②パフォーマンス評価を活用した授業実践の推進
小中高連携推進事業
モデル地区において、パフォーマンステストを中心とした授業改善に取り組む。ワーキンググループを設置し、有識者の指導を仰ぎながらパフォーマンステストの作成や評価、分析についての研修を行う。



パフォーマンステスト実践事例集の作成と周知

成果共有

①②ふくしまの高校生英語力診断
実践校の1・2年生を対象にAI活用したスピーキング学習を導入して、話すことの力を高めるとともに、英語民間試験を実施し、結果の分析等を通して、授業改善を図る。

福島県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		45	40.6	45		47		50		52	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		22	17.3	22		23		24		25	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		55	43.4	55		60		65		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		50	42.9	70		80		85		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	98.8	100		100		100		100	
		公表（％）	50	33.3	50		55		60		65	
		達成状況の把握（％）	55	54.3	55		60		65		70	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		65	66.6	67		69		71		73	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		55	29.9	55		56		57		58	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		45	35.8	45		46		48		50	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	60.2	75		77		80		82	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		90	79.5	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	96.2	100		100		100		100	
		公表（％）	45	38.8	45		60		80		100	
		達成状況の把握（％）	80	70.3	80		90		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		40	31.4	40		42		45		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		80	57.9	80		80		85		90	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	90	88.5	100		100		100		100	
		公表（％）	50	33.1	70		80		90		100	
		達成状況の把握（％）	80	73.2	90		100		100		100	